

RACE REPORT




 Round.01 **MOTEGI**
第1戦 モビリティリゾートもてぎ

2026年4月4日(土)

予選・決勝

天候：雨(決勝) 路面：ウエット(決勝)

#38 阪口 晴南

予選 12番手 決勝：12位

#39 大湯 都史樹

予選 15番手 決勝：14位

いよいよ2026年の全日本スーパーフォーミュラ選手権が栃木県のモビリティリゾートもてぎで開幕した。今季もSANKI VERTEX PARTNERS CERUMO・INGINGは阪口晴南と大湯都史樹のふたりを擁し戦うが、目指すのはもちろん2025年を上回る成績だ。

そんなシーズンに向け、チームは鈴鹿サーキットで2月に行われたテストを経て開幕大会に臨んだが、開幕の舞台であるもてぎはこのオフ路面の全面張り替えが行われており、全車にとって未知の要素となっていた。チームは新路面へ対応すべく4月3日(金)に2回のフリー走行をこなした。

QUALIFY 公式予選

 4月4日(土) 9:30~10:15 天候：曇り/雨 路面：ドライ~ウエット
 ベストタイム #38 阪口晴南 1'30.774 / #39 大湯都史樹 1'31.523

この週末は桜も見頃になるなど、4月3日(金)のモビリティリゾートもてぎは初春の陽気となったが、午前10時10分から、午後2時30分からと2回のフリー走行が行われた。エンジニアたちは事前に他カテゴリーで新路面を経験していたが、ドライバーたちの変化の感触は想像以上のもので、2回の走行のなかで対応を進めていった。

このフリー走行で好調だったのは大湯。「このオフ、チームの皆さんが取り組んでくださったことでベースが上がっている」と笑顔。新路面でのタイム向上も相まってパフォーマンスが良く、1回目は4番手、2回目は6番手と好位置につけた。一方で、浮かない表情なのは阪口で、1回目は18番手、2回目は19番手とタイムが出ない。「路面コンディションが上がるのに対してタイムが上がらない。チームいろいろ改善して下さっていますが、パフォーマンスを引き出せない」と阪口は振り返った。

そんな状況を覆すべくチームは作業を続け4月4日(土)の予選日を迎えたが、この日のもてぎは予選開始前からパラパラと雨が降りはじめた。ただ、すぐに路面を濡らすほどではない。午前9時30分からスタートした公式予選Q1のA組に出走した大湯は、スリックタイヤを履きタイヤを温め

ていくと、アタックに臨んだ。ただベストタイムは1分31秒523でA組の7番手。「少し戦略をミスしました。ウォームアップが足りませんでした」と大湯。

続くB組では、大湯の状況を見ながらアタックの状況を変えたものの、阪口は前日から取り組んだ改良が路面温度の低さのせいか奏功せず、1分30秒774とB組の7番手。SANKI VERTEX PARTNERS CERUMO・INGINGは2台ともにQ1突破はならず、阪口が12番手、大湯が15番手から開幕レースのスタートを切ることになった。



RACE

決勝レース

4月4日(土) 14:45~16:49 天候:雨 路面:ウエット
ベストタイム #38 阪口晴南 2'05.380 (16L) / #39 大湯都史樹 2'07.004 (20L)

公式予選終了後も、モビリティリゾートもてぎはわずかな雨が舞っていたが、午前11時過ぎから雨が強まりはじめ、路面は完全にウエットコンディションに転じていった。

迎えた第1戦の決勝レースは午後1時45分からスタート進行が始まったものの、雨量は多く前走車から大きな水煙が上がる。この第1大会では瑠子女王殿下のご臨席を賜り、スタート前に御挨拶があったが、その間も雨は強いまま。午後2時45分からの決勝はセーフティカー先導で始まった。

ただ雨量は増えていく一方で、セーフティカーは3周を走行したが、午後2時52分に赤旗中断となってしまった。

長い中断の間にやや雨量は減ったことから、決勝レースは午後3時55分にセーフティカー先導で再開されたものの、なかなかレースを行うまでに状況は改善しないままセーフティカーランが続いていった。

そんな中、阪口の車両にはうまくシフトアップができない症状が出てしまう。阪口はウォームアップを行いながらもチームと無線でコミュニケーションをとりエラーを解決しようとトライ。その甲斐あってトラブルは回復した。

そんな試行錯誤を経て、セーフティカーランは午後4時27分、16周目について解除された。レースはタイムレースに変更されており、残り15分での戦いとなった。

しかしリスタート前、さらにリスタート後にも水煙のなかでアクシデントが発生。5コーナーでストップ車両が発生し、

レースは3回目のセーフティカーランとなった。

残り6分というタイミングで再度リスタートを迎えた第1戦だが、ふたたび5コーナーでストップ車両が発生するなど、モビリティリゾートもてぎでの開幕戦は満足にレースができないままフィニッシュを迎えることになった。

SANKI VERTEX PARTNERS CERUMO・INGINGは、結果的に阪口が12位、大湯が14位とほぼグリッドどおりの順位で開幕戦を終えることになった。

レースは視界も悪く、大半がセーフティカーランだったことからほとんど追い抜きはなく、予選順位が決勝結果に繋がった。チームは4月5日(日)の第2戦で予選から好結果を得るべく作業を進めていく。



COMMENTS

ドライバー／監督コメント



38 阪口 晴南 SENA SAKAGUCHI

「今週はフリー走行からうまく流れが掴めておらず、公式予選に向けて39号車の良いところを参考にしながら臨みましたが、大きなミスはなかったにしろQ1を突破することができなかったので、パフォーマンスのなさを痛感する予選となりました。決勝レースはセーフティカーラン、赤旗、リスタートという流れになりましたが、視界も悪かったですし、どこまでリスクを負うのか難しいレースでした。シフトのトラブルもありましたが、ウエットでのクルマのポテンシャルは高そうだったので、その点は良い印象で終えることができました。明日はウエットの方が結果は残るかもしれませんが、とにかく次戦以降に向けてドライでスピードがあるのかを確認したいです」



39 大湯 都史樹 TOSHIKI OYU

「決勝レースはウエットコンディションのなかでアジャストがうまくいかなかったです。自信はあったのですが、思いのほかペースがなかったですね。決して遅いわけではないのですが、水煙のなかで自分のドライビングの面で攻め切れていないのか、少し考えさせられるレースとなってしまいました。あまり良いレースをみせることができなかった決勝でした。今日は予選も上手くやり切れなかったため、明日の第2戦に向けてしっかりアジャストしたいですし、自分自身Q2のスピードを体験しないまま終わってしまったので、イメージを膨らませながら良い走りをしたいと思っています。調子が悪いわけではないので、明日はポジティブに臨めると考えています」



立川 祐路 監督 YUJI TACHIKAWA

「寒い一日でしたね。公式予選では、阪口選手は前日のフリー走行からの不調からやや持ち直すことはできたもののQ1を突破するまでには届きませんでした。また大湯選手は金曜からすごく好調だったものの、タイヤのウォームアップをうまくしきれず、好調を活かせず同じくQ1突破ができない予選となってしまいました。決勝レースは天候もあり仕方ないのですが、まともにレースを戦い巻き返すことができませんでした。予選結果が響くことになってしまい、残念な第1戦になってしまったと思います。ただ明日はまた第2戦の予選、決勝がそれぞれあるので、きちんと立て直していきたいと思っています。明日もぜひ応援よろしくをお願いします！」



RACE REPORT

RESULT リザルト

第1戦モビリティリゾートもてぎ 決勝結果

Pos.	No.	Driver	Car	Engine	Laps	Total Time	Gap
1	6	太田格之進	DOCOMO DANDELION M6Y SF23	HONDA/M-TEC HR-417E	23	2:04'03.577	
2	1	岩佐歩夢	AUTOBACS MUGEN SF23	HONDA/M-TEC HR-417E	23	2:04'04.246	0.669
3	64	佐藤蓮	PONOS NAKAJIMA RACING SF23	HONDA/M-TEC HR-417E	23	2:04'04.593	1.016
4	65	I. オオムラ・フラガ	PONOS NAKAJIMA RACING SF23	HONDA/M-TEC HR-417E	23	2:04'05.242	1.665
5	12	小出峻	ThreeBond SF23	HONDA/M-TEC HR-417E	23	2:04'07.245	3.668
6	37	S. フェネストラズ	VANTELIN TOM'S SF23	TOYOTA/TRD 01F	23	2:04'08.341	4.764
7	50	野村勇斗	San-Ei Gen with B-Max SF23	HONDA/M-TEC HR-417E	23	2:04'08.675	5.098
8	16	野尻智紀	AUTOBACS MUGEN SF23	HONDA/M-TEC HR-417E	23	2:04'09.945	6.368
9	36	坪井翔	VANTELIN TOM'S SF23	TOYOTA/TRD 01F	23	2:04'10.495	6.918
10	97	R. スタネック	ナビクル Buzz MK SF23	TOYOTA/TRD 01F	23	2:04'11.074	7.497
11	5	牧野任祐	DOCOMO DANDELION M5S SF23	HONDA/M-TEC HR-417E	23	2:04'13.155	9.578
12	38	阪口晴南	SANKI VERTEX CERUMOINGING SF23	TOYOTA/TRD 01F	23	2:04'13.560	9.983
13	8	山下健太	KCMG Cayman SF23	TOYOTA/TRD 01F	23	2:04'15.301	11.724
14	39	大湯都史樹	SANKI VERTEX CERUMOINGING SF23	TOYOTA/TRD 01F	23	2:04'17.117	13.54
15	53	C. プルツ	TEAM GOH SF23	TOYOTA/TRD 01F	23	2:04'17.388	13.811
16	22	松下信治	DELIGHTWORKS SF23	HONDA/M-TEC HR-417E	23	2:04'20.106	16.529
17	9	野中誠太	KCMG Elyse SF23	TOYOTA/TRD 01F	23	2:04'24.022	20.445
18	28	小林利徠斗	KDDI TGMGP TGR-DC SF23	TOYOTA/TRD 01F	23	2:04'24.945	21.368
19	14	福住仁嶺	NTT docomo Business ROOKIE SF23	TOYOTA/TRD 01F	23	2:04'26.059	22.482
20	3	L. ブラウニング	REALIZE Corporation KONDO SF23	TOYOTA/TRD 01F	23	2:04'46.284	42.707
以上完走							
10	Juju	HAZAMA ANDO Triple Tree SF23	HONDA/M-TEC HR-417E	19	1:54'31.602	4Laps	
19	Z. オサリバン	WECARS IMPUL with SDG SF23	TOYOTA/TRD 01F	15	1:43'55.894	8Laps	
7	小林可夢偉	KDDI TGMGP TGR-DC SF23	TOYOTA/TRD 01F	15	1:44'01.063	8Laps	
4	笹原右京	REALIZE Corporation KONDO SF23	TOYOTA/TRD 01F	15	1:44'30.293	8Laps	

ドライバーランキング (上位)

チームランキング

Rank.	No.	Driver	Total	Rank.	Team	Total
1	6	太田格之進	12	1	DOCOMO TEAM DANDELION RACING	12
2	15	岩佐歩夢	10.5	2	TEAM MUGEN	12
3	64	佐藤蓮	6.5	3	PONOS NAKAJIMA RACING	10.5
4	65	I. オオムラ・フラガ	4	4	VANTELIN TEAM TOM'S	3.5
5	12	小出峻	3	5	ThreeBond Racing	3
6	37	S. フェネストラズ	2.5	6	San-Ei Gen with B-Max	1.5
7	50	野村勇斗	2	7	ナビクル Buzz MK RACING	0.5
8	16	野尻智紀	1.5			
9	36	坪井翔	1		SANKI VERTEX PARTNERS CERUMO・INGING	0
10	97	R. スタネック	0.5			
	38	阪口晴南	0			
	39	大湯都史樹	0			